

第2回 多摩市市制施行50周年記念誌作成準備委員会 要点記録

- 1 日時：平成29年5月24日（水）午前9時から午前10時30分
- 2 場所：多摩市役所3階 特別会議室
- 3 出席委員：浜田委員長、保坂副委員長、市村委員、松井委員
- 4 欠席委員：松尾委員
- 5 議題：市制施行50周年記念誌の編集基本方針案の決定について

1 開会

委員長 第2回目の多摩市市制施行50周年記念誌作成準備委員会を開催する。

2 議題

委員長 本日の配布資料について、事務局より説明をお願いしたい。

資料1及び2に基づき、事務局から内容について説明を行った。

何かご質問等はあるか。

事務局 本日は、「変貌する多摩～村から市へ～」というタイトルの多摩市の成長が描かれた映像を用意した。ご覧いただき、記念誌の内容についてのヒントになればと思う。

映像を流しながら、当時について説明を行った。

委員長 多摩市の急成長する様子は想像以上であった。映像製作が昭和63年とのことであるが、これ以前の映像等はあるか。

教育部副参事 本映像は昭和63年に製作されているが、内容は昭和55年から撮り始めているほか、昭和56年の市制施行10周年用に撮影した内容も取り込まれている。

委員長 この映像や写真そのものが、記念誌の材料となり得るものである。

副委員長 当時の映像製作会社とは今でもやり取りがあるのか。あるとすれば、かなり多くの資料を持っているはずなので、それだけでも素晴らしい文化財になる。

教育部副参事 現在でも、委託契約をしており、関係は続いている。

副委員長 記念誌に映像を取り込めたら良いと思う。映像で当時のことがわかるということも貴重であるが、映像の作り方やBGM、ナレーション全てにおいて、その時代を感じる事が出来るので、ぜひ映像で残したい。

委員長 当時撮った映像を記念誌に盛り込むことが出来たら面白いと思う。

多摩市はかなりの速さで形成されており、日本でもこのような都市は他にほとんどないと思う。ここまで急速に市が形成されたことを、ニュータウン開発後に入居してきた市民は知らないと思うので、知ってもらえると良い。

委員 多摩市は、自然豊かで、公園や森林が多いと言われているが、これらは、実はニュータウン開発で、一度壊されて更地になってから、新たに人工で作られたものあることを初めて知った。開発前からの多摩市を知る人のことを思うと、かわいそうな気持ちになった。

国の政策に基づく高度成長のまちづくりという部分も記念誌に盛り込めたら良いと思う。

- 委員 多摩市に転入したのは数年前で、ニュータウンの開発については聞いたことがあったが、今日、初めて当時の様子を映像で見て、その大規模で大胆な開発の様子には驚いた。開発前から多摩市を知る市民の、当時の苦労や努力についても描けたら良いと思う。
- 委員 長 人々の思いも伝わるので、デジタル化は重要だと思う。
- 委員 長 これまで作成した多摩市史が文章であるので、映像をデジタル化して表現するのは良いと思う。今日の映像を見て衝撃を受けた。自然豊かなまちが国の政策によって、一度リセットされて更地になり新しいまちができた。歴史としてつながっているように見えるが、実はこの開発で断絶しているのではないかと感じた。高度成長期における市の成長という言葉のみでは言い表せないと感じた。
- 副委員長 記念誌の構成割合について、現代の項目は増やした方が良いと思う。
- 委員 長 多摩市史刊行後について、分野ごとの研究内容や結果を載せても良いと思う。例えば、環境保全を市史刊行後どう取り組み、現在どうなっているのかを載せる。市史は資料の基盤として、その後の変化を記念誌に載せる。市史を継承するという意味からも載せたら面白いと思う。
- 委員 長 中世や近世については、市史刊行後の研究で新たに分かったこと等を記載する。市史刊行後にどんな変化や発見があったか。
- 教育部副参事 多摩丘陵での人類出現時期や縄文時代の内容については、いくつか変更がある。また植物については、2004年に多摩市でタマノホシザクラが発見された。現在市内に3、4本確認されている。
- 委員 長 民俗についてもあった方が、暮らしの移り変わりが表わして良いと思う。
- 委員 ニュータウンは、今ではオールドタウンと呼ばれており、経済成長のバブル崩壊後、少子高齢化が進んでいる。
- 委員 長 多摩市は、様々な場所がロケ地として映画やアニメ等で撮影されている。今後、ロケ地の誘致や、大学、企業と様々なことを協力し、オールドタウンと言われたいような明るくいきいきとしたまちを記念誌で表現できたら良いと思う。
- 委員 長 記念誌の構成案に「未来」とあるが、事務局としてどのようなイメージをお持ちなのか。
- 事務局 具体的な項目はまだ無いが、これまでの50年に対して、市としてのこれからの50年を描けたらと考えている。
- 委員 長 行政の未来ではなくて、市民にとっての50年が描けると良いと思う。
- 委員 先ほど意見として挙げたが、アニメやドラマで多摩市を目にすることが多い。今、注目されていることをアピールするのも良いかもしれない。
- 委員 新たに発見されたホシザクラや、多摩市の歴史である富澤家がどこで見られるのか。ガイド的なものがあると良いかもしれない。
- 委員 長 市史に書かれた「これからの多摩」について、刊行から20年たった今、実現されているのか、検証する必要もあると思う。
- 委員 これまでを記念誌に載せることも大事だが、今後の多摩、「未来」についての割合をもっと多く取った方が良いと思う。

委員長 事務局から示されている、編集の基本方針案の構成のイメージについて、「歴史」と「多摩市の歩み」を昭和初期までとそれ以降で分けるのではなく、多摩市の市制施行の前後で分けると良いと思う。あるいは、多摩市の市制施行ではなくて、ニュータウン開発の前後で分けても良いかもしれない。割合も半々程度にする。

副委員長 市制施行後を中心とするので、「現代」の項目をもっと膨らませて、その代わり近代を少なくする。それ以前は資料の量がかなりあると思うので、割合を少なくするのは難しいかもしれない。

委員長 多摩市史は、他自治体の市史に比べ近代の割合が多い印象がある。今後、編集段階で、調整が必要である。

委員 多摩市ができたきっかけが、ニュータウン開発であり、開発過程を知らない市民にも知っていただきたいので、施行後というよりは、ニュータウンができることから載せられたら良いと思う。学びの観点からも多摩市ができた理由を知ることが出来るので、良いと思う。

ニュータウンがどのように始まったのか。市の財産となりうる古民家等をすべて失うことになっても開発が行われ、そのうえにできた多摩市。時代の流れに沿って自然と成長した他自治体と違い、一瞬で作られた多摩市の急激な変化を見られたら良いと思う。

委員長 多摩市は高度成長期のシンボルのようなまちなので、それが表現できたら良い。

副委員長 今日、多摩市の変遷の映像を見て、昔の多摩村を知ることが出来た。また映像が持つ説得力を改めて感じた。メッセージ性が強くて良いと思う。

委員長 編集の基本方針においても重要な位置づけになると思う。ぜひ、デジタル映像化については考えていただきたい。

3 その他

事務局 次回第3回多摩市市制施行50周年記念誌作成準備委員会については、7月を予定している。委員の皆様には改めて日程調整の依頼を連絡する。

次回、最終回となる。市長へ報告できるようまとめていきたい。

7 閉会